

## 「一宮酒造有限公司」

### 新商品開発に燃える父娘

## 浅野社長と杜氏を目標す理可さんの挑戦

### 歴史ある酒蔵を継いだ社長の思い

創業、明治29年。100年以上の歴史がある一宮酒造(有)は、大田市街の中心部に位置している。

三瓶山の麓から湧き出る清らかな水を使って仕込まれた日本酒は、愛好家からの人気も高い。

20年前に会社を継いだ浅野社長は、ある課題に悩まされる。

「こんなに美味しい日本酒があるのに、日本酒離れが止まらない」

「特に若い人に日本酒のことを知ってもらいたい」との強い思いが浅野社長の行動力の根底にある。

日本酒ファンを増やす取

組みとして始めたのが新商品の開発。

以降、いくつもの新商品を生み出し続けてきた。



▶新商品の構想を語る浅野社長

### カフェ・キャリアと のコラボレーション

市内大森町にある日本で唯一のキャリアコーヒー輸入代理店「株キャリア・インターナショナル・ジャパン」。こちらで取り扱っ

ているカフェ・キャリア社のコーヒーはイタリア・モデナで100年以上愛され続け、魔法のコーヒーとされている。

同じ100年以上の歴史を持つ一宮酒造(有)とのコラボにより、両社が培ってきた伝統と技術に支えられた商品が完成した。

商品名は「アレリカ」。カフェ・キャリア本社のアレッサンドラ・キャリア社長と、一宮酒造(有)の若手後継者として杜氏を目標す浅野理可(りか)さんの、二人の名前から命名されたエスプレッソコーヒーリキュールだ。

1杯ずつ丁寧に抽出したエスプレッソを贅沢に使用した「アレリカ」は最高級の香りとマイルドな飲み口が特徴。ストレートやロッ

◀新商品「アレリカ」を紹介する浅野理可さん



クで香りを楽しんだり、ミルク割りでまるやかな味を楽しむこともできる。隠れたお勧めの飲み方はホット。エスプレッソの芳醇な香りを存分に堪能することができる。

### 女性のファンを 増やしたい

日本酒「雪香・YUKIKAI」は、特に女性ファンを増やしたいとの思いから生まれた。アルコール度数を低く抑え、飲みやすさを徹底的

に追求。独自の瓶内2次発酵技術により、まるやかな甘さとすっきりとした酸味を持ち、2013国際味覚審査機構において優秀味覚賞に選ばれた。

販売を開始して3年。現在では多くの女性ファンを集め、製造商品すべてを完売した年もあるほどだ。

既に、浅野社長は次なる新商品の開発に取り組んでいる。「常に次のこと、新しいこと。経営者に休む暇はありません」。

お客様に喜んでもらえるものづくりを常に追い求めている。



▲「雪香・YUKIKAI」

## 未来の杜氏が 目指すもの

そんな社長を支える存在が娘の理可さん。

東京の大学で酒造りを学んだ後、実家へ戻り、杜氏を目指して日々酒造りに向き合っている。女性で杜氏を目指しているのは全国でもほんの一握りだ。

2年の酒造りを経験し今年が3年目。「父が日本酒ファンを増やす取組みをしてくれている。だから、私は日本酒の好きな人を選んでもらえような日本酒を造りたい」と思いを語る。先輩杜氏の手ほどきを受けながら、他の酒蔵の情報収集も欠かさない。「自分の中で一番いいと思う造り方は何かを常に考えている」という。

一人前の杜氏を目指して、理可さんは、日々奮闘中だ。

※杜氏：酒造りに従事する職人。また職人の最高責任者。



▲一宮酒造有限会社（店舗）の前で銘酒「石見銀山」を手にする浅野社長と娘の理可さん

## 父と娘の二人三脚

「辞めたいと思ったことは何度もある。周りの友達と同じように遊びに行くことが出来なかったことが辛かった」、そう話すのは理可さん。

仕込みの時期になると泊まり込みでの作業が続く。若い理可さんにとって自分の時間が持てないことは辛

いことだった。

「麴は生き物なので、付きつきりでないといけません。蔵に入れば周りは杜氏さんをはじめ、年配の方ばかり。そんな中で寂しい想いもしたと思う。これから先輩杜氏さんから沢山学んで成長して欲しい」と娘の夢を一番近くで見守る厳しくも優しい父。父と娘、一宮酒造(有)の挑戦は続く。

## 新生

### 一般社団法人大田市観光協会

会長 谷本隆臣さん

これまで任意団体であった大田市観光協会が、市の観光振興の「中核的推進機能」を目指し、組織の強化と新しい取組みを推し進めるため、平成27年4月に、一般社団法人として新たなスタートを切りました。

行へとその形態もシフトしている今日、各観光地には地域ならではの魅力や新しさ、楽しさを備えた豊富な観光メニューが求められています。

旅行ニーズが多様化し、団体旅行から個人旅行

そうしたニーズの変化に対応するには、地域独自の自然や歴史文化、景観などの地域資源を活かした旅行商品が求められています。

今、各地域内の幅広い分野の人々が連携し、つくり上げる受け入れ地主導型の『着地型観光』への取組みが必要です。

一般社団法人大田市観光協会は、そうした観光地づくりを地域ぐるみで進め、観光入込客の増加、宿泊促進、観光消費の拡大を目指していきます。



▶「(一社)観光協会」設立総会の様子